



新年度の始まりにあたって

校長 鈿持 利行

暖かい春の陽射しのもと、爛漫の花に彩られて、いよいよ新年度が始まりました。93名の新入生を迎え、全校生徒数279名でのスタートとなりました。新入生の保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。2・3年生の保護者の皆様、今年度もよろしくお願いいたします。

新年度の始まりあたり、高松中生一人ひとりが「時間を大切にし、いろいろなことに挑戦してほしい」と願い、『ゾウとネズミの鼓動』の話を紹介します。ほ乳類は、どの動物でも心臓の鼓動は一生の間に約20億回打つそうです。ネズミのように小さいものから、ゾウのように大きいものまで同じで、もちろん人間も同じです。小さい動物ほど鼓動が速くて寿命は短く、大きい動物ほど鼓動はゆっくりで長生きすることです。しかし、寿命に違いがあっても、ゾウにしてもネズミにしても、一生を生ききった感覚は、案外変わらないのではないかとされています。一生を充実させて過ごしても、無駄に過ごしても20億回は変わらないということです。

〔本川達雄著『ゾウの時間ネズミの時間』より〕

新入生の皆さんには、これからの3年間という期間は、平等に与えられている時間です。20億回の内の3年間です。これを短いととらえるか、長いととらえるかによって、毎日の過ごし方が変わってきます。将来の夢や希望を実現するために、これから一日一日の時間を大切に、何事にも目標をもって、失敗を恐れず挑戦してほしいと思います。勉強をはじめ、部活動や行事、学級の係活動や委員会など、生徒会の活動にも積極的に参加し、自分の力を試してもらいたいと思います。その中で必ず、自分の得意なことや持ち味、優れた能力などが発見できるはずです。自分の良いところを発見できるとそれが大きな自信となり、さらに頑張ろうとする意欲にもつながります。やる前から諦めたり弱気になったりして、自分の可能性を簡単に狭めてしまうことなく、様々な活動に挑戦し自分を大きく成長させてほしいと願っています。

新入生に限らず、学校はいろいろなことに挑戦し、失敗や努力を繰り返しながら、成長していくところであると思います。我々大人は、小さな成果や成長であっても評価し褒めることや、たとえ失敗しても努力を認め励ますことなど、時宜を逸さないことが大切です。生徒がそれをバネに諦めずに、あるいは新たに意欲をもって頑張れるよう、ご家庭でも見守り支えていただければと思います。今年度も、豊かな心の育成と確かな学力の定着を目指し、教職員一同全力を尽くします。保護者・地域の皆様には一層のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

